

うりずんとは...「潤う」と水が土にしみとおる「染む」からなる言葉で、沖縄の若夏をあらわします。さわやかな南風が吹き、野山は緑にあふれます。うりずんのようにやさしい風に包まれて、ゆったりとした時間を過ごしていただきたいという思いから名付けられました。

うりずんの想い

私たちの住む地域のどこかで、
重い障がいを抱えた子どもたちと
24時間その子どもを介護している家族が暮らしています。
うりずんは、子どもたちが友だちと楽しく遊び、
両親は介護から離れひと休みできる場所です。
障がいを持った子どもと家族に
「普通」に暮らすことができる社会を目指しています。



暑中お見舞い申し上げます

いつもご支援いただきありがとうございます
暑さが続きますのでどうかご愛ください

認定特定非営利活動法人うりずん
理事長 高橋昭彦



◆ 永遠の出会い

すべては出会いから始まりました。1995年4月、宇都宮に来て在宅医として活動を始めた私を、あちこちに紹介してくれた人たちがいます。こうして宝物のような仲間が増えました。2001年9月、アメリカで同時多発テロに遭遇したことが契機となり、2002年5月、ひばりクリニックを開設します。ろまんちっく村で皆さんに祝っていただいた開所式は懐かしい思い出です。2004年7月、思いを伝えるツール「ひばりクリニック通信テレマカシー」第1号(略・ひ1)の発行が始まりました。

◆ うりずん黎明期

2006年10月、人工呼吸器をつけた子どもの暮らしの厳しい現状を見て、やるしかないと思われ、日中の預かりを決意します(ひ11)。在宅医療助成勇美記念財団の助成金を得て、研究事業「T-プロジェクト」を実施。これを受けて宇都宮市が日中一時支援の制度を創設、2008年6月にひばりクリニック内にうりずんが産声をあげました(ひ17)。皆さんの熱意がかたちになった瞬間でした。

◆ 震災とうりぼうの活動

2011年3月、東日本大震災で停電が問題となった際、うりずんには自家発電装置がありませんでした。通信の読者であった吉川かおりさん(現・うりずん理事、写真)を中

心に、支援団体「うりぼう」が結成され、発電機と修学旅行に行く高校生のために看護師派遣費用をご支援いただきました(ひ29)。うりずんの経営基盤が弱かったことから、うりぼうは発展的に解消して、NPO法人うりずんを設立しました(ひ30)。

◆ 支援者の広がり

認定NPO法人の要件に、3,000円以上の寄付を100人以上の方からいただく必要がありました。本当に多くの方々、通信と申込用紙を持って知り合いや地域を回って下さいました。こうしてうりずんは法人設立からわずか2年で認定NPOになりました(う9)。うりずんは、皆さんのご支援のお蔭で運営ができています。

◆ 地域との交流

作品を下さる、お花を持ってきて下さる、散歩する子どもたちに声をかけて下さる、動物園に招待して下さる、ゆいま～る学習会に参加して下さい、イベントの応援をして下さるなど、さまざまなかたちで地域との交流が広がっています。直接きていただけなくても、医療的ケア児が地域にいることを知り、子どもと家族の暮らしに関心を持って下さることも力になります。



(左より)原澤副理事長、仲村監事、吉川理事、高橋理事長、吉岡理事、柚崎理事、秋山理事、関口理事

◆ さらに、仲間を増やしたい

医療的ケア児は少数派です。関心を持つ人も少なく、我が子が医療的ケア児になってはじめて、厳しい現状が迫ります。母親はほとんど仕事復帰ができず、人工呼吸器をつけた子どもは通学すると親の同伴を求められます。ぜひ、関心のある仲間を増やしたいのです。知り合いに語ってください。事務局にお申し付けいただければ、うりずんサポーター勧誘セット(通信、パンフレット、振込用紙)をお送りいたします。ここから応援して下さいっている皆さんがいて、今があります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

今年も Dreamnight at the Zoo でたくさんの笑顔に出会いました。

楽しい zoo の記念に



花火



ポニーさんゆっくりね



ほら、
ふわふわだね



今年で 4 回目となる Dreamnight at the Zoo。年々参加人数が増えて、今年は、ご利用者様ご家族様含め 127 名でした!! 今回は例年の催しものに加え、花火もありました。手持ち花火ができるご利用者様やきょうだいたちが、手持ち花火を嬉しそうに行っておられたのがとても印象的でした。ご利用者様から、「カレーが美味しくて、ついたくさん食べてしまった!!」と嬉しい言葉をいただき、アンケートには、「昨年まで動物に触ることができなかった子どもが、今年は触れました!」と書いてあり、行事を通して子どもたちの成長を喜ぶご両親の声もありました。

なかなか外出が難しいご家族が多いので、この行事で動物園に出かける機会があることはとても大切だと、改めて感じました。宇都宮動物園の皆様、当日のボランティアの皆様にご心より御礼申し上げます。(佐藤英治)

「ふれあいまつり IN うりずん」開催決定!!

9月9日(土)
11:30~15:30
(於:うりずん)

今年はNPO法人障がい者福祉推進ネットちえのわ、NPO法人だいじょうぶ、NPO法人サバイバルネット・ライフ、ボランティアグループ わおん、とちぎ地域生活サポート研究会の皆様とNPO法人うりずんで実行委員会を作り、開催準備を進めております。

舞台発表として地元晃陽中学校吹奏楽部・国際医療福祉大学ダンス部(I.D.C)の皆様にご出演いただくほか、とちまるくんも遊びにきてくれる予定です! 皆様、秋の一日、うりずんに是非お越しください。

●● 新しいスタッフの紹介 ●●



金澤知子

♥ 皆さま はじめまして。6月2日から、お世話になっております、看護師の金澤知子(かなざわ・ともこ)です。すばらしいご縁を頂き、うりずんでお仕事させて頂けますこと、感謝申し上げます。お子さまにとっても、ご家族の皆さまにとっても、安心安全で楽しくご利用頂けますように、励みたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



平石牧子

♥ はじめまして。6月13日からお世話になっております保育士の平石牧子(ひらいし・まきこ)です。以前は幼稚園で14年間勤務しておりました。歌や手遊び、季節の制作活動、体操やふれあい遊びなど沢山の遊びを通してお子様が心から楽しみ笑顔になれる保育を心掛けていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【退職職員】言語聴覚士・伊澤雅子(4月)、保育士・磯 綾(6月)、それぞれ退職いたしましたことをご報告いたします。

日本財団助成「地域連携ハブ拠点のモデルづくり」事業

テーマ「みんなで考えよう!」
医療的ケア児の楽ラク暮らし!

平成29年 10月22日(日)
10:00~16:00(受付9:30~)

定員 150名
参加費 1,000円
※弁当付き

会場 宇都宮共和大学 長坂キャンパス5号館 501大講義室

講師 副島賢和氏、伊藤亮子氏、田添敦孝氏

編集後記

暑い日が続きますが、うりずんでは、子どもたちのかわいらしい笑顔で毎日満たされています。入職する前は、外部からうりずんを応援する立場でした。今回、通信を通してたくさんの方たちのご支援とあたたかな思いによって支えられているということに改めて感じることができました。子どもたちの笑顔のために、これからもみなさまのあたたかいご支援をお願いいたします。 宇賀神智子



うりずん通信・テレマカー

第 22 号 2017年7月20日発行

http://www.npourizn.org/

《編集・発行》 認定特定非営利活動法人 うりずん
〒321-2116 栃木県宇都宮市徳次郎町365-1
TEL: 028-601-7733(代) FAX: 028-665-7744(代)
Mail: urizn@hibari-clinic.com

《デザイン・印刷》 デザインスタジオ アクセス